

平成 29 年度

学校評価(結果)

育てたい生徒像

- 1 知・徳・体の調和のとれた感性豊かで至誠の心を持つ生徒
- 2 人権を尊重し、民主的でかつ協和の精神に富んだたくましい生徒
- 3 勤労と責任を重んじ、自主的・自立的に行動できる生徒
- 4 自己のあり方や生き方について考える生徒

徳島県立小松島西高等学校勝浦校

総括評価表

重点課題 1

「わかる授業の展開と確かな学力の定着」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策	
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定			
(全体レベル) 基礎的・基本的な知識・技術を習得させるため、指導方法の工夫・改善を行い、生徒の学力の定着と向上を図る。 (下位組織レベル) ①基礎学力の向上 ②指導技術の向上と評価方法の工夫・改善 ③授業時間の確保	評価指標 ①-1 授業の取組に関するアンケートを実施し、生徒の自己評価 80 %以上を目標とする。 ①-2 配布物をファイルに綴じ、ロッカー・机の整理整頓をする人が 73%以上を目標とする。 ①-3 1日の自主学習時間0の人が 56 %以下を目標とする。 ②-1 教員の指導力の向上や生徒理解を深めることを目的に学期に1回、授業見学会を実施する。 ②-2 年間学習指導計画における評価方法を検討し、授業の進め方や評価方法の改善を実施する。 ③ 年間授業実施率 80 %以上を目標とする。	評価指標による達成度 ①-1 各HRにおいて、各学期末に授業の取組に関するアンケートを実施した。ほとんどの質問項目で 80 %以上の評価であった。 ①-2 配布物をファイルに綴じ、ロッカー・机の整理整頓をする人が 82.3%であった。 ①-3 1日の自主学習時間0の人が 42.8%であった。 ②-1 学期に1回、1週間程度の期間を設定し、授業見学会を実施した。 ②-2 年度当初に作成した年間学習指導計画に基づき、授業を実施することができた。 ③ 31 HR年間授業時数 1389 時間 $1389 / 1890 \times 100 = 73 \%$ 32 HR年間授業時間 1257 時間 $1257 / 1715 \times 100 = 73 \%$	評定 A B C A A B	総合評価 評定 (所見) B 授業の取組に関するアンケートより、今年度も授業の雰囲気に関する自己評価が 70 %台であったので、基礎基本を重視したわかる授業をめざし、授業内容の改善、評価方法の見直しをする必要がある。 また、自主学習に関しては、声かけをすることで学習時間が増えた生徒もおり、勉強する大切さを粘り強く伝えていく必要がある。学力向上をめざして朝のSHRにおいて漢字学習を行っているが、1人でも多くの生徒に学習する習慣を身に付けさせたい。 授業見学会については、次年度、実施方法を改善する予定である。	B	○授業内容の改善 評価方法の見直し ○自主学習の習慣化 ○学校行事の精選 授業時数の確保
	活動計画 ①-1 学期末にアンケートを実施して集計結果を表示し、生徒の授業に対する意識や学習意欲の向上につながるよう情報発信を行う。 ①-2 毎時間ロッカーや机の整理整頓ができているかチェックし、配布物はファイルに綴じさせ、自己管理をさせる。 ①-3 各教科で予習・復習を促す課題を定期的に与える。 ②-1 ワークシートを用いて授業見学の評価を行い、授業者に良かった点や改善点を伝達し、教員の指導力及び授業の質の向上につなげる。 ②-2 各科目における評価基準を毎年検討し、生徒の実態に応じた授業の実施につなげる。 ③ 校務運営委員会において授業の実施率を報告し、教員に授業の実施状況の情報発信を行う。学校行事の見直しや振替え授業を確実に実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 アンケート結果から生徒の授業に対する取組について推測することができた。HR担任にアンケート結果を伝え、改善を図っている。 ①-2 ほとんどの生徒ができているが、まだファイルをロッカーの上に置いたままにする生徒が数名いる。 ①-3 家庭での学習はテスト前以外あまりしない。学校で勉強して帰るといいう生徒が多い。 ②-1 授業見学会を設定したが、出張や校務の都合で、当初の目的を達成することができなかった。 ②-2 各科目の年間学習指導計画の作成にあわせて評価基準の検討を行っている。 ③ 学期末に「基礎学UPプロジェクト」と称した基礎基本を身に付けさせる取組を実施した。授業時間数は各科目、に位置づけたので、若干ではあるが、授業時数を確保することができた。	成果と課題 ① アンケート結果から生徒の素直な感想や意見を知ることができた。HR担任や教科担任と連携して、生徒が安心して登校し授業に取り組むことができる環境をめざしていきたい。 また、プリント等を整理整頓させる指導を継続し、さらに自己管理能力を身に付けさせたい。 ② 教員の授業力の向上、わかる授業の実施につながる取組を実施する必要がある。次年度は研究授業や授業見学会において、授業者以外の全ての先生方が参観できるように体制を計画したい。 ③ 生徒は「基礎学UPプロジェクト」に意欲的に取り組んでいる。わからないところを友達同士で教え合ったり、問題を次々に取り組む姿を見ることができた。 来年度も学力向上委員と連携して、継続して取り組みたいと思う。	学校関係者の意見 日々の学習の中で、「わかった」「できた」という喜びを感じられるようにしてほしい。そのことにより、学習意欲が高まり自分の成長を自覚できる。 アンケートで生徒の意見を拾い上げ、それを授業に取り入れ改善していることはすばらしい。 教科を越えて実施し、授業改善意欲をより向上させ、有意義なものに発展させてほしい。	○アンケート結果の情報発信 ○教室の美化 学習環境の整備 ○授業見学会の実施方法に関する検討 ○基礎学UPプロジェクトの内容や実施方法の改善	

総括評価表

重点課題 2
「豊かな人間性の育成と人権教育の推進」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定 総合評価		
(全体レベル) 一人一人を大切にし、互いに思いやり尊重する態度を育てるとともに、生命や人権を大切にすることを意欲を培い実践力を身につける。 (下位組織レベル) ①ホームルーム活動づくり ②教職員研修の充実	評価指標 ①-1 人権学習ホームルーム活動満足度 85%をめざす。 ①-2 いじめ等に関するアンケートを学期に1回実施し、実態を把握し防止に努める。 ①-3 全学年で道徳教育のホームルーム活動を計画的におこなう。	評価指標による達成度 ①-1 人権学習ホームルーム学習満足度は生徒が80%、教職員が80%であり、さらなる満足度の向上へつなげたい。 ①-2 いじめ問題に関するアンケートを実施し、ホームルーム活動などに活かすことができた。 ①-3 行事等の関係で道徳教育のホームルーム活動を実施することができなかった。	評定 B B B	総合評価 評定 B (所見) 人権学習ホームルーム活動は、今年度は個人人権問題を中心とするホームルーム活動を全学年で実施。生徒の理解度や関心も約80%以上と高かった。教職員に対してもあわせて同和問題勉強会を実施したので充実度も高かった。また「防災と人権」のホームルーム活動と炊き出し訓練を実施することができた。生徒・教職員も満足度は高かった。今後も教職員の研修会等を充実させるため、日程や内容を精選する必要がある。	A ○実施内容の工夫及び教職員対象の勉強会の実施 ○同和問題学習の充実 ○研修内容の検討
	活動計画 ①-1 人権学習ホームルーム活動を行うにあたっては、人権教育課が学年に応じた資料を提示する。 ①-2 いじめなどに関するアンケートを実施し、実態把握に努め、適切な対応をおこなう。 ①-3 道徳教育のホームルーム活動を実施する際には全学年の統一の指導案を作成する。 ②-1 校外の研修会には、教職員が少なくとも年間1回以上参加するようにする。 ②-2 校内の研修会を年間2回以上実施する。 ②-3 特別支援教育の理解を深めるために、年間1回以上研修会を実施する。 ②-4 特別支援関係機関との連携・相談をはかり、ケース会議を年間2回以上実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 今年度は個人人権課題中心の人権学習ホームルーム活動なので各学年担当から学年に応じた資料を提示した。 ①-2 いじめ問題に関するアンケートが実施できた。 ①-3 行事等の関係で今年度は実施することができなかった。 ②-1 日程や内容により、全員の教職員が参加することが難しかった。 ②-2 今年度は北海道の修学旅行に行くため、「アイヌの人々」について初めて研修会を実施した。 ②-3 特別支援学校から講師を招き、特別支援に関する研修会を実施した。 ②-4 ケースに応じて近隣の特別支援学校と連絡を取り、相談をおこなった。またケース会議を実施した。	成果と課題 ①-1 年間を通して個人人権課題に取り組んだので、同和問題について学習することが前年に比べ減少した。 ①-2 本年度はいじめ問題を中心とする人権意識調査を行うことができた。 ①-3 来年度は道徳教育のホームルーム活動に関する指導案を作成する予定。 ②-1 教職員が充実した研修を受ける事ができる環境整備に努力が必要である。 ②-2 決して身近ではないが、国内に存在する様々な人権について話し合うきっかけになったので、これからも積極的に取り組んでいきたい。 ②-3 学校の実態に応じた研修会を展開していくことが必要である。 ②-4 生徒に関する情報を教職員でいつでも共有できるように、会議の日程や内容を吟味していく必要がある。	学校関係者の意見 生徒一人一人が安心して楽しく学べる学校が理想である。また、若い人たちが「防災」を考え、そこから人権も学び、経験を積んでいってくれることは頼もしい限りだ。いじめ問題は、未然防止が一番大切である。いち早く先生が感知してほしい。 今後も引き続き、自らの資質・能力を高めるための研修を充実させてほしい。	○各ホームルーム活動実施前の事前勉強会実施 ○アンケート内容の再検討 ○活動内容・テーマの検討 ○計画的な実施及び効果的な研修内容の検討 ○関係諸機関や保護者とのスムーズな連携

総括評価表

重点課題 3

「キャリア教育の推進と進路希望の実現」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	総合評価		
(全体レベル) 望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけさせ、主体的に進路を選択する能力と態度を育てる。 (下位組織レベル)	評価指標 ①-1 卒業時における生徒の進路決定率 90%以上をめざす。 ①-2 「勝浦塾」就業体験学習自己評価肯定率 80%以上をめざす。 ② 総求人数 250 人以上をめざし、60 社以上企業訪問を実施する。 ③ 取得資格数 1 年生対象に実施する刈払機取扱作業教育の資格取得率 80%以上をめざす。 2 年生、3 年生対象に実施する農業技術検定 3 級の合格率 70%以上をめざす。	評価指標による達成度 ①-1 卒業時における生徒の進路決定率 100% ①-2 「勝浦塾」就業体験自己評価肯定率 92.6% ② 総求人数 666 訪問企業数 82 ③ 取得資格数 刈払機取扱作業教育 合格者 37名(100%) 日本農業技術検定 3 級 合格者 2名(8%)	総合評価 評定 B (所見) 1 年生のうちから将来について考える機会をもたせ、常日頃から生徒と話すことにより将来について展望をもたせ考えさせることができた。 「勝浦塾」や進路ガイダンス等を通じて仕事に対するイメージを持たせることができた。 資格試験については、生徒が主体的に取り組み将来役立つような活動ができた。	B	○進路について考える機会を増やす。 ○「勝浦塾」への参加を呼びかけ、仕事をするという事について考えさせる。
	活動計画 ①-1 夏休み中に「勝浦塾」就業体験学習をおこない、受入事業所から評価と助言をもらう。9月に「勝浦塾」報告会を実施する。進学希望生徒はオープンキャンパスに参加する。 ①-2 職業理解・職業体験のため分野別の職業ガイダンスを学期に1回実施する。3 年生は講演会・職業ガイダンスを実施する。 ②-1 進路指導課・3 年学年団を中心に5, 6月に企業を訪問する。 ②-2 ホームルーム活動、授業等を通じての進路指導を年3回以上行う。 ③-1 関係機関と連携し、各種検定や資格を積極的に取得することができるように情報提供を行う。 ③-2 農業技術検定の合格率を向上させるための取組(補習)を実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 夏休み中に就職希望者は就業体験を3日間おこない、進学希望者はオープンキャンパスに参加した。9月には報告会を実施し、2 年生全員が発表の機会をもった。 ①-2 進路ガイダンス・職業体験を学期に1回実施した。1 年生は進路相談会に参加し、3 年生は職業ガイダンスをおこない就職の心構えを学んだ。 ②-1 5, 6月に管理職・進路指導課・3 年生学年団が分担して企業訪問を実施して求人依頼を行った。 ②-2 各学期において進路指導についてのホームルーム活動や授業を行った。 ③-1 園芸装飾技能士、小型車両系建設機械、危険物取扱者など検定や資格の合格者を出すことができた。 ③-2 検定前に授業形式で、過去問題に取り組み補習を行った。	成果と課題 ①-1 実際に仕事をする事で仕事をするとはどういうことなのかを知ることができた。就業体験を通じて仕事の喜びや厳しさも実感することができた。今後進路を決める上で役立った。 ①-2 職業体験により実際の仕事について学べる機会ができ、体験することによって適性も判り将来について深く考えることができた。 ②-1 生徒との面談を通じて生徒が希望する職種を把握し、それに応じた企業訪問を計画的に実施することができた。 ②-2 進路指導の授業等を通じて、どのような高校生活を送れば良いのかと考える良い機会となった。 ③ 各種検定や資格取得について積極的に取り組むよう、HR担任や資格担当教員による情報発信を行うことができた。農業技術検定の合格率を向上させる指導のあり方について、検討する必要がある。		

総括評価表

重点課題 5
「特別活動の活性化と環境教育の推進」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定 総合評価		
(全体レベル) 創造的な活動を通して集団、社会の一員としての自覚を深め、よりよい生活、環境づくりに主体的に取り組む意欲と実践力を育てる。 (下位組織レベル) ①生徒会活動・HR活動の活性化 ②部活動の充実・活性化 ③環境・エネルギー教育の充実	<u>評価指標</u> ①-1 生徒の特別活動満足度 90%をめざす。 ①-2 朝のあいさつ運動を毎日実施し、平均参加者数 10名をめざす。 ①-3 収穫祭における来場者数 500名をめざす。 ①-4 学年集会を 5 回以上実施する。	<u>評価指標による達成度</u> ①-1 体育祭・文化祭・収穫祭の平均満足度 92% ①-2 平均参加者は 8 名(12 月末まで)で、目標には届かなかった。 ①-3 収穫祭の来場者数 約 240 名。今年は土曜日実施のため、また催し物の多い時期でもあり、少なかった。 ①-4 クラス別・学年別集会を 5 回実施した。	評定 A B C A A B B A	<u>総合評価</u> 評定 B (所見) 学校行事の面においては、生徒会を中心に活動が円滑に行われ、満足度も一定の数値は得られている。しかし、すべて生徒会役員に依存している状況は今年度もかわらない。またあいさつ運動は、誰でも参加可能なボランティアであるので、各種委員会にも働きかけて参加を促したが、人数も増えず、各種委員会の活動も今年度もあまり活動できなかった。 部活動は、部員が一定数集まらないなど少人数校の宿命があるが、本校の中心部活であるライフル射撃部や民芸部は今年度も全国規模で活躍している。しかし他の部の活動内容も精選していかなければならないだろう。 環境活動は引き続き取り組んでいかなければならないと考える。	B ○すべての行事の計画・立案・相談の迅速化 ○特活課と農業科、および各担当との連携 ○文化祭・体育祭・収穫祭のあり方の模索 ○部活動の活性化 ○節電・ごみ分別・リサイクル活動の推進
	<u>活動計画</u> ①-1 本校の伝統となっている挨拶運動を引き続き実施する。参加者を増やすために、生徒会や生活委員会に強く呼びかけると共に、有志を募る活動を行う。 ①-2 生徒による新しい活動の企画・運営が図れるよう指導する。 ①-3 学校行事への主体的な参画が図れるよう指導する。 ②-1 自然科学部は、農業の授業とも絡ませ、より地域に出て行きやすくするために、全員参加の部活動の形態を取らせる。 ②-2 収穫祭等での本校との交流活動を盛んにする。 ③-1 毎日の清掃時には職員を配置し、ゴミの分別を徹底させる。 ③-2 生徒会や有志による校内清掃活動を月 1 回行う。	<u>活動計画の実施状況</u> ①-1 実施時間を遅らせたことでバス通学生などがあいさつ運動に参加しやすくなった。しかし、生徒会役員のみで、全校的な広がりは見られなかった。特に冬場は参加人数が少なかった。 ①-2 文化祭で生徒会によるダンスを行い、場を盛り上げた。しかし、体育祭では、職員の手が足りず、一部の生徒に負担をかけてしまった。 ①-3 学年別集会を 5 回実施し、主体的に取り組む環境を設定した。 ②-1 部活動と農業の授業を関連させることで起動力が生まれ、活動の幅が広がった。 ②-2 吹奏楽部とのコラボレーションや「雪花菜アイス」の販売を行い、好評を得た。 ③-1 職員配置はできている。しかし、分別の徹底はできていない部分もあった。 ③-2 約週 1 回、生徒会役員による校外清掃活動を自主的に行っていた。	<u>成果と課題</u> ①-1 挨拶の励行と大きな声を出すという積極性が、マナーの向上やボランティアマインドの醸成に役立ち、生徒の自信や成長につながっている。参加者の増加が課題である。 ①-2 生徒自らが積極的に関わり楽しもうという意識が芽生えてきたが 1・2 年生の主体性が薄いように感じられる。体育祭は好評であったが、来年度も従来の内容の精選・工夫が必要である。 ①-3 学年で団結することにより、各々の理解が深まっているように感じた。 ②-1 イベントなどに出て行く場合は、参加者が固定されてくるということが課題ではあるが、他の生徒も資料作りなどの裏方として活躍している。 ②-2 今年は収穫祭に本校の「雪花菜アイス」の生徒が来られず、生徒同士の交流はあまりできなかった。 ③-1 生徒会役員が約月 1 回、校外の清掃活動を行っており、それを目の当たりにした他の生徒のマナーの向上や節電・ごみ分別・リサイクルの意識の変革、向上を望みたい。	<u>学校関係者の意見</u> 生徒の元気なあいさつや活発な活動は地域にも力を与える。今後も継続し、自信をつけさせてほしい。 少人数ではあるが、すべての行事に生徒が自ら積極的に活動している。しんどいこともあるだろうが、その経験がすべてに役立つことを、必ず知るべきであろう。 仲間作りは社会性育成の出発点である。人間関係が希薄になってきている現代社会ではあるが、コミュニケーション能力や協働性を育ててほしい。 民芸部の公演を町民に見せてあげたらどうか。 環境問題により関心をもつよう、引き続き実施してほしい。	○生徒会以外の生徒が参加しやすい雰囲気醸成 ○「あいさつ」の意識付け ○文化祭のあり方の検討 ○体育祭の種目の検討 ○内容の充実 ○綿密な連携 ○本校や地域への積極的な働きかけ ○一人一人のマナーの向上 ○環境美化に関する意識の向上

総括評価表

重点課題 6

「学校の活性化、産業教育の振興と新しい学校づくり」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定 総合評価		
(全体レベル) 基礎・基本の定着を図りこれまでの教育を創造し、地域に根ざした活力と魅力ある学校づくりを推進する。	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価 A (所見) A 地域に根ざした学校として地域貢献、環境保全活動や新しい時代に対応した農業教育を実践してきた。今後も、地域に根ざした学校として活動していきたい。	
	① 校外実習活動、交流学习の実施数を年間15回以上行う。	① 校外実習活動と交流学习の実施回数。 (計35回)	A		
	② 年間を通して野菜・果樹・草花等を中心に農産物の生産と販売をおこなう。	② 年間を通して野菜、果樹、草花、加工品等を中心に農産物の生産と販売を行うことができた。生産収入も当初予算より増額となった。	A		
	③ ホームページの更新を月平均7回以上おこなう。	③ ホームページの更新については月平均 (10回)	A		
①本校教育の地域への還元 ②農場経営の活性化 ③広報活動の充実	活動計画	活動計画の実施状況	成果と課題	学校関係者の意見	
	①-1 地元小・中学校・特別支援学校等で土作りから栽培管理等について農業支援をおこない交流を深める。(10回以上)	①-1 ひのみね支援学校1回(花壇作り)、横瀬小学校3回(野菜の定植のための圃場整備やサツマイモ植えつけ・収穫)、上勝中学校1回(芝小僧作り)、勝浦中学校1回(草花の寄せ植え、芝小僧作り)、小松島西高校との松西藍プロジェクト7回(藍の栽培・染色体験) (計13回)	日頃学習した農業に関する知識や技術をいかして様々な活動に取り組んできた。交流学习や学校間連携では、農業についての知識や技術を支援することで生徒自らの学習意欲が喚起され、自信となった。また、体験をとおしてコミュニケーション能力の向上や本校の取り組みについて理解してもらった。今後も生徒の自主性や主体性を育てるように取り組むことが必要である。 バイオテクノロジーを活用し、絶滅危惧種や希少植物の保護、保全活動ができた。しかし、現地への移動方法や資材の購入等の予算捻出や授業時間の調整が課題である。地域に根ざした学校として、また、農業高校として生産から加工・販売に取り組んできた。そして、地域の農産物及びその販売状況についても学習することができた。 新鮮で市場価格よりも安く安全で安心な農産物が購入できると地域の方々からも好評であった。 施設・設備の老朽化における整備と有効利用、狭小な圃場の有効活用を更に検討していく必要がある。 ホームページの掲載により学校と地域社会を繋ぐ大きな接点となった。ホームページの掲載を更に勧めたい。	先生方が一人一人の生徒を大事に育てて大きく成長させてくれていることがよくわかる。 花づくりや果樹・野菜づくりを通して農業の発展に貢献している勝浦校の存在は大きく、地域に根ざした学校として今後も意欲のある生徒を獲得してほしい。勝浦校が農業の発展に貢献してきた功績は大きい。今後も農業高校として役割を果たし、頑張ってもらいたい。農業をもっと大切にしたい、その努力が報われるようにしてほしいものである。 また、地域の人たちも勝浦校の生徒たちとの交流を楽しみにしている。資格取得の講習会など、地域の人たちも希望者を募り、いっしょに受講すれば交流になるのではないかと。予算も軽減される中、限られた施設・設備を有効に利用することが重要になる。先生方は十分努力をしてくれているが、より工夫しながら教育効果を高めてほしい。 情報の時代である。どんどん情報発信してほしい。	○ 校外実習活動、交流学习の継続と実施。生徒の自主性・主体性の育成 ○ 校外での活動を行うための予算確保 ○ 施設・設備の整備と有効活用の推進 ○ 研究機関や農家等の見学や研修。そのための予算確保 ○ 情報発信と宣伝活動の充実
	①-2 地元の病院や介護福祉施設へ出向き、花壇作り等環境整備をおこなう。(20回以上)	①-2 勝浦病院(花壇作り、庭園管理7回)、特別養護老人ホーム喜楽苑(花壇作り・庭園管理・寄せ植え交流15回) (計22回)			
	①-3 ジンリョウユリやリンドウ等希少植物の苗の提供、植え付け、観察等増殖活動をおこなう。(4回以上)	①-3 ジンリョウユリやリンドウ等希少植物の苗の提供、植え付け、観察等の増殖活動を行った。 (計4回)			
	①-4 棚田での田植え、稲刈り等保全活動をおこなう。(3回)	①-4 田植え、除草、稲刈り等へ参加した。 (計3回)			
	②-1 地元で期待されている草花や野菜等魅力ある農産物の生産を心掛ける。	②-1 草花苗、メロンやトマト・露地野菜、スダチ・チャンドラポメロ、ジャム等多くの農産物を小学校や中学校、収穫祭、農産物販売所「よってネ市」等で販売しみなさんに喜んで頂いた。			
	②-2 地元の農産物販売所「よってネ市」で野菜・果樹・草花等の農産物をあわせて年間35品目以上販売する。	②-2 野菜・果樹・草花等多くの農産物の種類と数量を販売することができた。 (計32品目)			
	③-1 ホームページの内容を見直し、新しいデータに更新する。	③-1 記事の内容や見やすさを考えて学校の様子や生徒の活動状況等を紹介した。			
	③-2 学校と保護者の連携を図るため各イベントに応じて情報の発信をおこない、説明責任を果たす。	③-2 保護者に各行事等についての案内や連絡をしたりホームページでの掲載をしたりして情報の発信を行うことができた。			